

別 紙

第60回 静岡県公衆衛生研究会 優秀演題ホームページ掲載要旨

分 科 会 名	第 3 分科会	演題番号	308
題 名	服薬補助を目的とした食品が医薬品成分の溶出性に与える影響について (第2報)		
所 属	環境衛生科学研究所、*中部健康福祉センター		
氏 名	○内田貴啓、望月玲於、高橋真、白鳥暁子、影山知子、堀池あずさ 小林千恵*		
要 旨 (簡 潔 に)	<p>高齢化の進展に伴い、高齢者に対する薬物療法の需要が高まり、厚生労働省は「高齢者の医薬品適正使用の指針（総論編）」（平成30年5月）を示している。その中で高齢者の服用アドヒアランス低下の要因として嚥下機能障害をあげており、その対策として剤形変更の他、服薬補助ゼリー等の活用を提案している。</p> <p>また、インターネット上においても、加齢に伴う嚥下困難者の服用アドヒアランス向上のため、とろみ調整食品や服薬補助ゼリーの活用が紹介されている。しかし、これらの食品について服薬補助を目的として用いた場合、医薬品有効成分の溶出性に与える影響が懸念される。</p> <p>第59回本会にて、トラネキサム酸を対象成分とし、錠剤、カプセル剤及び細粒について、とろみ調整食品又は服薬補助ゼリーを用いた場合と、医薬品単体との溶出挙動の違いについて報告した。</p> <p>その後、原材料の異なる服薬補助ゼリーを用いての検討、消化管pHを考慮した試験系での検討を行い、研究結果について、嚥下困難な高齢者等の服薬に活用されるよう、周知を行った。</p>		